

35年間の長い歴史と深い絆

中国深圳小学教育友好訪問団との交流

11月25日(月)～28日(木)に、中国深圳小学からの教育交流訪問団が野々市市を訪問しました。中国深圳小学との交流が始まったのは、昭和60年のこと。児童の相互訪問を行い今年で35年目となりました。当初は野々市小学校との交流からスタートして、今では市内のその他小学校にも訪問し、交流の場が広がっています。



深圳小学からの訪問団23人は、野々

市小学校、富陽小学校、館野小学校を訪れました。25日(月)に野々市小学校で行われた歓迎式典では、6年生の村松菜乃香さんが「今日は、野々市小をゆっくり楽しんでください。一生心に残るすべきな交流がしたいです。みんなと仲良くなりましょう」と歓迎の言葉を述べると、深圳小学5年生の胡家華さんが「交流を通して日本や野々市のことを知り、お互いのことを理解してこの友情を深めていきたい」と答えました。

26日(火)に訪問した富陽小学校では、折り紙で作った力士でのトントン相撲や給食で交流。午後には、館野小学校を訪れ英語の授業に参加しました。英語で書いた自己紹介カードを使った自己紹介やゲームを楽しみ、互いの距離が縮まった様子でした。

滞在期間中、訪問児童16人は市内8家庭で2泊のホームステイを行い、日本の生活を体験しました。異なる文化との出会いや交流は、双方の児童にとって、かけがえのない経験になつたことでしょう。